

# 学校だより

平成30年2月1日発行 第10号

朝霞市立朝霞第四中学校  
〒351-0012 朝霞市栄町5-1-60  
TEL: 048-466-4711  
FAX: 048-467-4744  
E-mail: 4chuu@asaka-c.ed.jp  
文責: 校長 唐松善人

目指す学校像 一人一人が輝く 明るく楽しい学校 あたたくきれいな学校

## 姑息の愛



中江藤樹は、江戸時代初期の儒学者であり、近江聖人と呼ばれた人です。その中江藤樹は、著書『翁問答』の中で、よくない子育てとして「姑息（こそく）の愛」をあげています。中江藤樹の言う「姑息の愛」とは、子どもに苦勞をさせず、子どもの願いのままに育てることです。なお、姑息（こそく）には、辞書によれば「一時のまにあわせ。その場のがれ」という意味があります。

例えば、雨の日に、怪我や病気などの特別な理由もないのに、子どもが雨の中を学校に行くのは大変だろうと大人が判断をして車で送っていく。子どもがゲームや携帯電話を欲しがったら、愛する子どもが欲しがっているという理由だけですぐに買い与えてしまう。

こうした育て方は、一見すると、慈悲深い愛のように見えます。しかし、子どもに特別に配慮を要する事情がない限り、こうした育て方は一度考え見直してみることも必要かもしれません。中江藤樹によれば、こうした育て方をすれば、やがては子どもは気ままになり、人としての心が育たなくなると著書の中で述べています。

子どもは、年齢が上がるにつれて、自分自身でできることが確実に増えてくるものです。その中には、学力や体力だけではなく、他人とつながる力、すなわちコミュニケーション能力があります。さまざまな問題に出会ってしまったとき、自分で考え解決できることは長い人生を生きていくうえでとても大切なことです。なぜなら、多くの人が集まる集団の中では、小さなぶつかり合いは当然、起こるものだからです。学校生活の中でも小さなぶつかり合いは存在しますし、社会に出ればより大きな人間関係の摩擦を経験することにもなります。

最初は、大人が介入して解決の方向性を示してあげることが大切です。しかし、子どもの年齢や発達段階を考慮して、徐々に、子どもたち同士で話し合い、折り合いを付ける力を身に付けさせることも大切なことなのです。このような経験を積み重ねながら、子どもには、思考力や判断力が身に付き、徐々に自立していくことができるようになります。

「姑息な愛」という言葉から、一時的な愛情ではなく、真の愛情を持って、子どもを育てたいと改めて思いました。



## 四中の様子



### 【オリンピック教室開催】



サッカー・酒井友之先生  
(シドニー大会出場)



バドミントン・廣瀬栄理子先生  
(北京大会出場)



水泳・佐藤久佳先生  
(北京大会出場)

1月23日、24日の2日間にわたり、第2学年の全学級を対象にして、日本オリンピック協会によるオリンピック教室が実施されました。この教室は、オリンピック出場経験のあるアスリートが教師役となり、自分の経験を通して「オリンピックの価値」を中学生に直接伝えるものです。各学級とも、講師の先生により、1時間の運動と1時間の座学の授業を受けました。生徒の生き生きとした表情が印象的でした。